

安楽寺寺報

# 聞光

第80号  
歓喜会号  
2016/8/1

発行所  
〒737-0054  
呉市上山田町2-28  
安楽寺  
0823-21-7561

## 三つの言葉

信楽晃仁

ひかり幼稚園では夏休みに入り、静かな日々を過ごしています。数名、の預かり保育の子ども達が来ていますが、今年は園舎の工事も有り、部屋の中でおとなしくして遊んでいます。先生は？といいますが、お休みではありません。この時期は一学期のまとめや、二学期の準備、幼稚園の整備、そして様々な研修会が開催され、それぞれの整理とスキルアップの時でもあります。それぞれが、色々の研修会に参加し、自身の資質向上を目指します。特に、ひかり幼稚園では、親鸞聖人の教えに基づいて幼児教育を行う「まことの保育※」を実践しています。私立幼稚園にとっ

ては、その教えこそが一番の要です。しかしこれは学校では学んできい

ませんので、若い先生達も幼稚園に入って初めて経験します。親鸞聖人の教えを元とした幼児教育を学ぶことで、ひかり幼稚園の保育で何を一番大切にしなければならぬかを学んでいきます。

私も六月、築地別院でまことの保育の全国大会が開催され、参加してきました。その研修会の講師には、テレビでも様々な活躍されている先生方がお集まりでした。今回はその中に前任職が生前中もまた逝去後も



一枚の写真

先日、平和公園に行きました。平和公園にはたくさんの折り鶴が届けられています。オバマ大統領の折り鶴も話題となり、それ以後、館者は増えているそうです。しかしそれ以上にこの子ども達の届けてくれた折り鶴、これが心を打ちます。その折り鶴に添えて、白い紙に子ども達の思いが書いてありました。「恐ろしい戦争を知り、平和の大切さを知る」「絶対に戦争をおこさぬように、関係のない人を犠牲にしないように誓います」「原爆にあった人の思いをむねに」「戦争がおこらない気持ちさえあれば、戦争は絶対におこらない」と。この子ども達の心に、大人はどう応えることができるのでしょうか。(K)

※「まことの保育」とは親鸞聖人の生き方に学ぶ、浄土真宗本願寺派がすすめる幼児教育の名称です。

# 安楽寺マンガ通信

その32 信楽めぐみ作

「あじがむひの反対語のい知っていますか?」



「あじがむひ... 突然さむが!」

## 熊本地震義捐金送金について

4月には熊本におきまして大きく、断続的な地震がおこりました。多くの方が被災され、避難生活を未だに続けられています。浄土真宗のお寺も崩壊し、御門徒もたくさん亡くなりました。その被災者の皆様に少しでもお届けできればと思い、本堂に募金箱を設置しました。

皆様の御懇念が下記の通り集まりましたので、「本願寺たすけあい募金」を通じて、熊本へお届けいただくようお願いしました。ここにご報告いたします。

未だに復旧の目処が立っておりません。引き続き、募金箱を設置しておりますのでご協力を宜しくお願いいたします。

義捐金金額 54,935円

## 報恩講 お斎のお休み

前号よりお知らせさせていただいております通り、ひかり幼稚園は、園舎建て替えのため、この夏休みから解体工事に入っております。

つきましては、法要時の駐車スペースの確保が十分できないことが見込まれますので、できる限り乗り合わせて、また徒歩でお参り頂きますようお願い申し上げます。

また、例年11月の報恩講にはお精進のお斎を婦人会の皆さんが作って下さっていましたが、今回は幼稚園の炊事場がないため、調理ができず、お斎はお休みとさせていただきます。法要時は通常通り、お弁当30個の注文はしておりますので、参詣者はそちらをご利用下さい。

「すみません」



謝る言葉も最初に思い浮かべる人も多いと思えます。

実は「当たり前」が「あじがむひ」の反対語なんです。



何しても当たり前でも当たり前が板についていませんか?日々の生活を振り返ってみまじょう。

当たり前

何ても当たり前と思わず、日々の感謝を忘れない生活を心がけまじょう。それこそ次回のお楽しみまじょう。



編集後記  
七月に例年通り、年長さんのお泊まり保育がありました。八月には旧園舎の解体に入るため、この旧園舎での最後のお泊まり保育となりました。子ども達にもそのことを話すと言っている子もいました。しかし楽しいお泊まり保育、子ども達もとても楽しんだことと思います。その本堂での就寝時、先生達は「晩禱」に子ども達の世話をします。トイレにおこしたり、タオルを掛けたり、写真撮ったり、先生は大変です。次の日、ずつと子どもについていた先生が「子どもをおこしてトイレに連れて行くと、寝ぼけているのに、本堂を出る時に一礼するんですよ。身についているんですよ」とそれを聞いてうれしくなりました。身につくとはそういうことだと思えます。私たちは寝ぼけの「寝ぼけ」として、ただのほけになるかも知れません。しかし、そうなるまで身についたものは変わらぬままです。その時に何か出てくるかわかりませんが、どうかその身についたものが、仏様に頭を下げることであるように、全身につけておきたいと思えます。

「まことの聞法とは」  
親鸞聖人は、もしも自分に都合のよいように、えてかかって聞くならば、それはまことの聞法にはならないと明かされております。そしてまた、それはまず、自身自身にとってよく受持し、領解されるべきであって、いかに聞くとも、他人に聞かせるための聞法であるならば、それはまことの聞法にはならないといましめられていきます。

そしてまた、聞法とは、何よりも自分自身が浄土に救われてゆくためのものであって、それがもしも、自分の名誉や利養のためになされるとするならば、それは決してまことの聞法とはいえないと示されております。すなわち、親鸞聖人は、まことの聞法とは、教法の道理を、すなおに聞受し、領解してゆくことであり、またそれは、他人のためにではなく、名聞、利養のためでもなく、ひとえに自己自身が浄土に救われてゆくためのものであって、よくよく主体的



『この道をゆく』

『暮らしの中の仏教語』  
京都の三大祭りの一つ、祇園祭は、華麗な山鉾巡行でにぎわいます。祇園といえは、だらりの帯の舞妓さんを連想したり、『平家物語』の一節を思い浮かべたりする人もいることでしょう。インドの舎衛城に一人の富豪がいました。孤独な人を哀れみ施しをしたので、給孤独長者と呼ばれていました。長者はお釈迦さまに深く帰依し、寺院を寄付したいと探し回って見つけた土



『祇園』

地が祇陀太子の土地でした。太子は、土地に金貨を敷きつめたら譲ろうと、冗談で言ったところ、長者はその通り実行し始めたので、太子は驚き長者の熱心さにうたれ、土地を譲り、自らも樹木を寄付して寺院建設に協力しました。この由来から、寺院は両者の名をつけて、「祇樹給孤獨園精舎」略して祇園精舎といいました。現在「祇園」とつく祭や、地名はそのような仏教のお話の中から名付けられたものです。

にこそ聞かれるべきであると教えられているのであります。そしてまた、親鸞聖人は、おなじく『涅槃経』の文を引いて、聞くと言ふことはたんに耳に聞くと言ふことにとどまらず、心の底に深くしみとおるようこそ聞くべきであるといつて、聞くとは「聞思」することではなければならないと明かされております。



# お念仏のしずく

安楽寺法要案内	
九月	<p>前任三回忌・彼岸会</p> <p>日時 9月24日(土) 朝席10:00～ 昼席13:00～ 講師 音戸 法専寺 元平安高校教諭 毛利 悠 先生 講題 念仏の興隆を願って ～信楽峻磨先生の教学と行動～</p>
十月	<p>顕真・永代経</p> <p>日時 10月22日(土) 朝席10:00～ 昼席13:00～ 講師 岐阜・願誓寺 船橋 哲成 先生 講題 信心の言葉を味わう ～信楽峻磨先生の教えを生きる～</p>
十一月	<p>報恩講</p> <p>日時 11月12日(土) 朝席10:00～ 昼席13:00～ 講師 大阪 妙安寺 大江 修 先生 講題 信心 ～信心とはどうなることか～</p>
十二月	<p>涅槃会</p> <p>日時 12月10日(土) 朝席10:00～ 昼席13:00～ 講師 北九州 浄圓寺 龍谷短期大学非常勤講師 金山 玄樹 先生 講題 人間のねうち ～私一人で聞くべきこと～</p>

摘に、最後まで、公私混同はないと否定していましたが、家族との温泉旅行や、贅沢すぎる海外旅行、美術品の購入や、マンガまでが公費でまかなわれる様は、どう考えても納得できるものではありませんでした。連日その模様をテレビが報道し、日本中から大バッシングの嵐でした。その中で、御講師の先生が「彼はこの状況でも一度も「すみません」といえなかった。あの場面で一言の謝罪もできないというのは、幼児期における教育に、何か大切なものが欠けていると思われまふ」とお話しくださり、納得することでした。抜群に頭がいい人です。東大を出て、政治学者で、会社を立ち上げ、すばらしい経歴を持つています。すばらしい頭脳をもっているのに、人間的に何か欠けている所がある。もったいないことです。現代社会はアメリカに習い、訴訟社会になりました。あやまつたら負けという風潮が広がっています。車がぶつかっても絶対にあやまつたらダメだ。「すみません」というと、自



分の過失を認めたことになるという話まで耳にしました。しかしそれで本当に幸せな社会が築けるのでしょうか。日本は和国と言われます。聖徳太子は「和を以て貴しとなす」と言われました。また大和とは、大いなる和の国という意味だそうです。どこをとつても、争いを主とする民族ではありません。これは私たち日本人が大切にすべき言葉であり、その言葉の奥には、その言葉が伝えてきた日本の文化があります。人はあやまちをおかすものです。このすみませんという言葉が素直に言える心を育てる事が大切です。

そして最後は「もったいない」です。実はこの三つの言葉を終業式の日子ども達に話しました。「長い夏休みだけれども、お家でこの、ありがとうと、ごめんなさいと、もったいないの言葉で夏休みを元気で過ごして下さい」と話しました。その中で一つ一つの言葉について、子ども達にも問うてみました。ありがたいというときに言う？と問うと、

子ども達が手を上げて「やさしくしてもらった時」「お菓子もらった時」と、色々出てきました。二つ目のごめんなさいは？と聞くと「悪いことをした時」「意地悪した時」「ウソついた時」と。そして最後の「もったいない」も聞いてみました。「これは難しいけど」と前置きして聞くと、即座に年長の女の子が手を上げて「大切なものをなくした時」といいました。すばらしい応えで、みんなが感心しました。



私たちの回りには、大切なものがたくさんたくさんあります。その大切さが見えているでしょうか。大切なものが揃っているから、私たちは生きることができ、何不自由なく生活することができています。ところが、その大切なものをなくしていくのです。これもいけない。あれもいらないと。大切なものに気づかず捨てていくのです。それは人間までも、命までもいらぬといつて捨てていく社会になっていまいでしょうか。人は思いつきによって、大切なものを見失っていき